

第72回穴粟市議会定例会会議録（第5号）

招集年月日 平成28年12月16日（金曜日）

招集の場所 穴粟市役所議場

開 議 12月16日 午前9時30分宣告（第5日）

議事日程

日程第 1 一般質問

日程第 2 第125号議案 伊水小学校屋内運動場改築工事請負契約の締結について

本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

日程第 2 第125号議案 伊水小学校屋内運動場改築工事請負契約の締結について

応 招 議 員（18名）

出 席 議 員（17名）

1番	岸 本 義 明	議員	2番	稲 田 常 実	議員
3番	林 克 治	議員	4番	藤 原 正 憲	議員
5番	飯 田 吉 則	議員	6番	大 畑 利 明	議員
7番	東 豊 俊	議員	8番	福 嶋 齊	議員
9番	榎 橋 美 恵子	議員	10番	西 本 諭	議員
11番	実 友 勉	議員	12番	高 山 政 信	議員
13番	鈴 木 浩 之	議員	14番	山 下 由 美	議員
15番	岡 前 治 生	議員	16番	小 林 健 志	議員
18番	秋 田 裕 三	議員			

欠 席 議 員（1名）

17番 伊 藤 一 郎 議員

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局 長	岡崎悦也君	書記	上長正典君
書記	岸元秀高君	書記	清水圭子君

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市長	福元晶三君	副市長	清水弘和君
教育長	西岡章寿君	会計管理者	尾崎一郎君
一宮市民局長	榎谷米男君	波賀市民局長	松木慎二君
千種市民局長	幸福定利君	企画総務部長	中村司君
まちづくり推進部長	坂根雅彦君	市民生活部長	小田保志君
健康福祉部長	大島照雄君	産業部長	中岸芳和君
農業委員会事務局長	山石俊一君	建設部長	鎌田知昭君
教育委員会教育部長	藤原卓郎君	総合病院事務部長	花本孝君

(午前 9時30分 開議)

議長(秋田裕三君) 皆様、おはようございます。

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付しておりますとおりであります。

日程に先立ち諸般の報告を申し上げます。

本日、市長から、議案1件が提出されております。

それでは、日程に入ります。

#### 日程第1 一般質問

議長(秋田裕三君) 日程第1、一般質問を行います。

通告に基づき順番に発言を許可します。

まず、実友 勉議員の一般質問を行います。

11番、実友 勉議員。

11番(実友 勉君) おはようございます。11番、実友でございます。議長より指名をいただきましたので、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今日は最終日ということでございます。最終なんですけど、私のほうも少し緊張いたしておりますので、できるだけ簡単な質問ということでさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

私は、今回、3点についてお尋ねをしたり、お願いをしたりすることにいたします。

1点目なんですけど、国見の森を日本一の学びの森にということでお願いをいたします。

昨年の9月議会におきまして、今回と同じ国見の森公園を日本一の学びの森にできないでしょうかと質問をさせていただきました。市長からは、関係者の皆さんの意見を伺いながら、私自身先頭に立って県に働きかけていきたい、このような前向きな答弁をいただいております。

そこで、その後何か変化は見られるでしょうか。今年の9月22日には、国見の森公園の10周年記念式典が盛大に行われ、たくさんの方で賑わったものでございます。私にはもう少し物足りなさがございます。それは、あのモノレールや広大な敷地があるにもかかわらず、淡路のイングランドの丘とか、岡山のドイツの森などと比べると、人手があまりにも少ないというふうに思います。前回にも述べましたが、日本産の動物園の建設や冒険の森、キャンプ場の設置などをして、日本一の学びの森を再度提案させていただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

また、関連いたします相生山崎線のトンネル事業化について、これは、県への働きかけ等、市長もしておられるというふうに思いますが、どのようになっていますか、お伺いをいたします。

2点目でございますが、市内の祭りを一つにということをお願いをしたいというふうに思います。

今年も10月、11月を中心に、各地で祭りが展開をされました。それぞれの地域で、地域の特色を生かした祭りだったというふうに思います。市長は、そのほとんどに顔を出されております。市からの助成もいただきながらではございますが、各地域のリーダーさんは大変な努力をされております。しかし、ある人から前回の議会報告会の会場でこんな話を伺いました。どこの祭りも賑やかにされているけれども、祭り、イベント開催等、旧町意識が高過ぎる、強過ぎるのではないかと、こんな話を聞きました。この人は各種団体のリーダーを務めておられる方でございます。

祭りは地域の特色を生かした祭りではなくてはなりません、各地域の祭りを市民誰もが共有できるものにするにはできないでしょうか。そうすれば、旧町意識の話は出ないのではないのでしょうか。市長の言葉の中によく使われる花回廊をつくるなどを考え合わせ、市内の祭りを巡回できるようなことは考えてはいかがでしょうか。

今、公共交通は市内どこにも運行をされております。この公共交通を利用し、花回廊であったり、祭りを巡回できることであったりはいかがでしょうか。その期間中、特に祭りが開催をされます土曜日、日曜日に公共交通を運行させ、運賃についても少し利用しやすい方法をとったりすることはできるのではないのでしょうか。市長のお考えをお伺いをいたします。

次、3点目でございますが、音水湖の利活用についてということでお伺いをいたします。

音水湖の利活用につきましても、今年の3月議会におきまして質問をさせていただいたことがございます。内容につきましては、モーターボートの練習場にどうですかという質問でございまして、内容は違いますけれども、前回の質問の中で市長からの答弁や、いつもの話の中で聞かせていただいておりますように、その後どのような動きになっているのか、お伺いをしたいというふうに思います。

話の内容につきましては、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、そのカヌーの競技の練習場として使用していただけるよう働きかけていきたい。また、国道29号におきましては、聖火ランナーが通ることも考えたいと話をし

ていただいているように思いますが、その後、この問題は前向きに進んでいるのでしょうか。

また、カヌーに関しまして、何か大きなイベントの誘致等は考えられておるでしょうか。2021年に開催されると聞きます関西ワールドマスタースゲーム等の関係は音水湖を活用することはできないでしょうか、お伺いをしたいというふうに思います。

1回目の質問を終わります。

議長（秋田裕三君） 実友 勉議員の一般質問に対し、順次答弁を求めます。

福元市長。

市長（福元晶三君） 改めまして、おはようございます。どうぞ本日もよろしくお願ひ申し上げます。

実友議員さんより大きく3点いただいておりますので、順次お答えをさせていただきたいと、このように思います。

最初に、国見の森公園の関係であります。県立国見の森公園は、自然と触れ合う中で、心豊かな生活づくり、生きがいづくりを目的として設置された県立公園であります。指定管理者である公益財団法人しそく森林王国観光協会が施設の管理・運営を行っていただいております。

平成26年度には、年間来園者が4万人を超え、開園以来35万人を超える来園者があり、大きな観光拠点ともなっております。

この間、多くのボランティアスタッフ等によって支えていただいております、その目的達成のために甚大な御尽力をいただいております。

また、この9月には、10周年記念事業として各種事業も展開をしていただいております。着実にその役割を果たしておるのではないかなとこう思っております。改めて関係者の皆様に心よりお礼と感謝を申し上げたいと、このように思います。

ただいま、あるいは昨年来より御提案をいただいております日本産の動物園の建設であったり、あるいは冒険の森、さらにまたキャンプ場等々の設置、子どもさんからあるいは大人、さらに家族連れ、こういったことをにらんで、多くの来園者に来ていただける可能性があるのと、こういう考え方の中で御提案をしていただいております。

冒頭申し上げたとおり、この施設は県立の施設でもありまして、県の施設運営の長期的な展望も含めながら、さらなる来園者の増加に向けた整備等について、これまでも要望してきたところでありますが、ただいま御提案のあったことにつきまして

ても、なお一層要望活動を強力に進めていきたいなど、このように考えております。

各種、県との会議の中、特に県民局長、知事との懇談会の中でも地元の県会議員含めていろいろこういう話も出ておりますが、聞いておりますと、県も非常に財政状況等々が厳しい中で、このことも承知をしておると、こういう状況であります、県議も含めて一体になりながら、さらに要望活動を努めて、さらなる観光拠点の整備と、こう繋がるように努力をしていきたいと、このように考えております。

また、この公園の地形やモノレール等の施設につきましても10年がたち、一定いわゆる老朽化等々というんですか、そういったことの施設の課題もあることから、公益財団法人しそく森林王国観光協会においても、国見の森公園の運営に関する提言を検討していただいておりますと、このように聞いておりました、いましばらく時間が必要というふうにも聞いておりますので、御提案いただいたことも含めて、今後、観光協会等々とも一体となりながら、十分検討を加えていきたいと、このように考えております。

時期や機会を捉えながら、繰り返しになりますが、さらに県へ強く働きかけていきたいと、このように思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

次に、関連の県道相生穴栗線のトンネル化、このことについてであります、穴栗市とたつの市により、テクノ関連による相生山崎間の道路早期開通促進協議会を設立し、中国横断自動車道路姫路鳥取線の早期開通と通行不能区間のトンネル整備について、西播磨の県民局長、あるいは兵庫県選出の国会議員への要望等、現在、働きかけを行っておるところであります。

その中で、姫路鳥取線は平成33年3月開通を目指し、現在、工事が進められておるところでありまして、聞いておりますと、順調に進んでおると、こういう状況でありまして、トンネル事業についても事業化のことについては、既にその平成33年を目指して順次進められております。

ただ、この県道相生穴栗線のトンネル化の事業については、現在は事業化のめどは立っておらないということについては、御承知のとおりと、このように思います。したがって、今後も沿線地域の振興、特に国見の森公園の利用拡大に大きく寄与すると、こういう観点からも含めて、これまで以上にさらに要望活動を強めていきたいと、このように思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

2点目の市内の祭りであります。特に各地域の祭りを市民の誰もが共有できるも

のにできないか等々の御質問であります。現在、地域で行われている祭り、イベントにつきましては、大きく分けると、合併前の旧町から行政が主体で行ってきたもの、あるいは、それぞれの地域で自発的に行われてきたものに大きく分類できるのではないかなど、このように思います。

合併後でも当然であります。祭りとして地域の主体的な自発的な祭りもできたものもありますが、大きく二つの分類ができると、このように考えております。

それぞれのイベントには、いろんな工夫や改善をしながら今日まであるわけですが、そのイベント等に必要があれば、現在助成措置も講じておるところであります。あるいは、市が主体になるものについては、当然、市が主体となってやっておると、こういうことでもあります。

御指摘があったとおり、旧町意識云々と、こういうこともあるわけですが、この間、それぞれ各イベントについて自治会長さんや、あるいは地域のリーダー、多くの皆さんがかかわっていただいて、長年続けていただいております。この祭りやイベントを続けるというのは、非常に大変な御苦労があるのではないかなと思うんですが、私は続けていただくことに非常に大きな意義もあるだろうと、このように考えております。

現在、少子高齢化が進み、いわゆるイベントの企画であったり、準備であったり、あるいは当日の運営、そういったことについて人材が非常に少ないんだと、かわるものも少なくなって、祭りあるいはイベント等も運営が非常に厳しい状況があると、こういうことも聞いておりますし、お話があった旧町意識が強いと、こういうようなことも当然聞いております。

今後、ますます少子高齢化や、あるいは過疎化で衰退する中で、市としても人的な支援、あるいは財政的な支援、こういったことができるのかということも含めて、地域の方々が望まれていることを十分管理しながら、そういった意見も参考にしながら、今後この祭りのありようについても十分検討を加えていったり、課題を整理する必要があると、このように認識をしております。

市としては、基本的には地域の自立、あるいは自主的な運営ということを根本にしながら、繰り返しになりますが、財政的あるいは情報発信を含めて、後方的な支援をすることによって、市民の皆さんがそれぞれの祭りを共有できるように、また、参加できるようなことに今後工夫を加えて、あるいは努力をしていく必要があるとこのように考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

特に、今年にあっても、それぞれの地域で同じ日にいろんなイベントが開催をさ

れておる状況もありますし、当然、活力やそのことによって愛着やとか、こういうことに繋がっていくわけでありますが、お話のありましたとおり、同日開催のときには、場合によりまして、それぞれイベントめぐりができるような、あるいは市内が循環できるようなことも含めて、今後検討をする必要があるだろうと、このように思っております。

あわせもって、公共交通との関連の御質問があるわけでありますが、公共交通を利用して、祭り参加手段、このことでもありますけども、現在、大型バス路線、公共交通計画の中では、市外連絡路線という表記をしておりますが、いわゆる大型バス路線、例えば姫路から山崎の待合所まで来る、あるいは山崎から国道を通ってずっとまた千種へ回っていく、あるいは千種から幹線を使って三河を通って山崎へ来る、こういったところはいわゆる市外連絡路線といっておるんですが、大型バス路線を走っております。その大型バス路線等々につきましては、土曜、日曜の運行が現在ありますが、その便を利用していただいて、会場の近くまで、いわゆるそれぞれの地域のイベント会場の近くの駅までは行くことが現在可能であります。

ただ、課題は、その駅からそれぞれの会場に行く便がないと、こういうことでありまして、それをという御質問だと、こう思うわけでありますが、現在は、御承知のとおり、日常生活云々の中で土曜、日曜については、いわゆる小型バスについては運行しておらない状況でありまして、そういったところについては大きな課題があるだろうと、このように認識しております。

今後、そのことも含めながら、利用できる公共交通のできる仕組みができればいいと、このように思っておるところであります。現段階では、土曜、日曜だけ、あるいは土曜、日曜に大型バス、あるいは小型バスの連携で非常に厳しい状況でありまして、いろんな御意見をいただいております。

ただ、繰り返しになりますが、当然、費用等のこともあるわけでありまして、各種イベント等の中で、うまく市外連絡路線との停留所への送迎等の運行が可能なのかどうかを含めて、そのことによって交流人口の拡大であったり、あるいは地域間交流の増大、さらにまた、旧町意識の払拭、そういったことに繋がる可能性も非常にありますので、そういったことに鑑みて今後検討していく必要があるだろうとこのように考えております。

ただ、現状では非常に厳しいということは思っておりますが、将来に向けてそういったことの課題を整理していきたいとこのように考えております。

次に、音水湖等の利活用であります。関西ワールドマスタースゲームの誘致に



つきましても、かねてより県のほうにも要望しながら、何とかとこういうことであつたわけでありまして、本年10月に兵庫県より御希望には添えないとの通知があつたというところでありまして、先般、知事との懇談の中で、ワールドマスターズゲームズでのカヌーの誘致は結果として奈良県になりましたと。大変残念な結果であつたけども、2021年の大会終了後、もしくは終了前含めながら、プレイベント的に県としても大会を開催ができるよう、今後調整していきたいという旨の知事よりの発言で、今回は奈良県でということになったということで、今後そういったことの御意見も踏まえながら、兵庫県やあるいは競技団体とも調整をしながら、何とかそういったものが誘致できないかなと、このように考えております。

あわせもって、オリンピックの合宿誘致につきましても、各種情報サイトを活用しながら、もう既にいろんなところへ情報発信しておりますが、関係団体とも十分調整して、何とか合宿誘致に取り組んでいきたいと、このように考えております。

また、今後、当然であります、全国大会あるいは大きな大会をするには、それなりの施設整備も必要な部分もあります。県の力をお借りしながら大会の誘致とあわせもって充実を図っていくよう進めていく、このように考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

あわせもって、御質問のありました国道29号のいわゆる東京オリンピックの聖火ランナーの件であります、平成25年12月、平成25年にいよいよ東京オリンピックが決まったわけでありまして、その段階で宍粟市の市長名で県知事にいち早く聖火リレー誘致についてという要望書を提出をさせていただいておりまして、何とか地域の活性化やこの国道29号の今日の状況を見て、さらにまた子どもたちや地域住民に夢を与えてほしいと、こういう願いをしております。

また、あわせもって、国のほうにも当時の地域創生大臣の石破担当大臣にも2回ほどお会いさせていただいて、何とかとこういうことでその旨を要望しております。ただ、今現在聞いておりますのは、オリンピックの委員会のほうで、まだ正確に聖火をどこを通るとか、とこういうことには議論がなされていないと。ただ、いろんな形で水面下では調整をしておるけれども、そのことについての回答はできないとこういふようなことも含めて聞いております。

したがいまして、本年に入りましてからは、西播磨市町長会におきまして、姫路市長、あるいは姫路市が何とか聖火リレーの誘致をしたいという申し出も新聞紙上でも発表がなされましたが、宍粟市と共同でその誘致を進めていきたいということは、市長同士その確認をしております、そういった要望はもう既に国のほうに要

望しておるところであります。

宍粟市としても、私としても、何とか聖火ランナーあるいは聖火が国道29号を通ればいいなという思いで、今後についても要望活動等々をしていきたいと、このように思っておりますし、また、具体的な要望活動になりましたら、また議員の皆さんにもいろいろ協議をさせていただいて、御支援をいただいたらありがたいと、このように思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上であります。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） 再質問させていただきたいというふうに思います。

まず、国見の森の関係なんですけども、先ほど市長からもおっしゃいましたように、これは県から公益財団法人しそく森林王国観光協会が指定管理を受けて、管理運営をされているところでございます。この県からの指定管理者制度、いつまで続くでしょう。私はその辺にちょっと懸念をするわけでございますが、県には国見の森と同様の施設が6カ所もあるわけございまして、いつか市のほうへ移管されるようなことがある可能性もあるやに聞きます。そういったことも考えあわせますと、やはり独立採算制の施設を持っておかなければできないんじゃないかと、そんな心配をするわけでございますが、先日、私の知り合いの方から、今回一般質問をするというようなことも聞いていただいてわかりませんが、ある団体の理事長さんなんですが、参考になればという国見の森の改革案をいただきました。この理事長さんは、あるテーマパークのお仕事をされておった、そういった経験を持っておられる方でございますけれども、中身を見させていただきまして、すばらしい内容だなというふうに、私は感心をいたしました。

市長さん、副市長さんのほうに、ちょっと提出をさせていただいたんですが、少しかいつまんで話をさせていただきますと、目的とコンセプトということで、新たな観光基盤として雇用の創出の場をつくる。そして、独立採算可能な規模と集客を目指すというようなことを書いておられました。そして、このコンセプトとしてナラ・クヌギ類の落葉広葉樹の森を主体とする里山を基盤とした親子三世代が楽しめるカブトムシ、クワガタハウス、そういったものも考えたらどうだろうというような提案もございました。これにつきましては、年間約25万人程度の来客が見込めるだろうと、専門的な方でございますので、そういったことをうたっておられます。そして、また売り上げにつきましても、今言います25万人が来てもらえれば5億円は入ってくるだろうと、そんな目安も立てておられまして、すばらしい計画でござ

います。こういったことにつきまして、市長のほうから、例えば、県のほうにこういったこともありますよというような紹介もしていただけることはできるでしょうか、お伺いをしたいというふうに思います。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） 最初の御質問の中にありましたように、今、指定管理ということでもありますけども、今回、県も行政改革プランを示されておりまして、御質問にありましたとおり、県下この6施設等々があるんですが、その改革プランの中には、まだ具体的には出ていないということではありますが、ただ、あくまで推測でありますけども、いつまでもというわけにはいかないと、このようには認識しておりまして、したがって、将来は可能な限り独立採算ということになるのではないかなと、こう思っております。

ただ、市としては、できるだけ県の施設として可能な限りいつまでも守ってほしいと、こういう願いは共通するところではないかなとこう思うところであります。特に、CSR事業ということで、県の法人超過課税を使ってのこういう施設、文化であるとか、スポーツであるとか、あるいはカルチャーということで、そういう目的を持って県民のそういったものを高めていこうと、こういうことでそれぞれ施設があるわけであります。可能な限り県のほうでと、このお願いはしたいところあります。

ただ、今お話があった改革案につきましても、かねてよりいろんなお話の中で、先ほど申し上げたとおり、しそ森林王国観光協会においても、これからどういう立ち位置を持って、この施設を運営していくのか、あるいは、さらに拡充していくにはどういったものが必要なのか、そういったことも今議論していただいておりますので、場合によりまして、しそ森林王国観光協会のほうにこういった提案を一度練ってほしいということも含めて、その上に立って県のほうにも出せるようであれば出していきたいと、このように考えておりますので、そのように御理解いただいたらありがたいと思います。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） 市長のほうから提案もしてみたいというようなことも伺いました。何とかそういった提案もしていただきまして、すばらしい公園にしていだきたいというのが願いでございます。

それとあわせまして、テクノ関連の道路でございますけれども、このことにつきましては、今の知事さんが、以前のことにありますけども、平成25年度にはあのト

ンネルを抜いて行こうという以前の話ではございますけれども、そういった話がございまして、計画がございました。もう平成25年はとうに済んだわけでございますけれども、そういった考え方を持っておられる知事でございますので、トンネルにつきまして、もう一度市長のほうから強く要望していただくようなことはできないでしょうか。お伺いをさせていただきたいと思います。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） 私もこのトンネルのことについては、先ほど申し上げましたとおり、姫路鳥取線の関係を含めて、その経過の中で、この相生山崎線のトンネルについても十分お聞きしております。

したがって、当然、必要な路線でありますので、強く要望していきたいと、このように考えておる、ただ、県のほうにこれまでもいろいろお伺いする中では、なかなか非常に現状は厳しいんだけど、粘り強く要望を続けてほしいという声もありますので、今おっしゃったことを胸にしなから、要望を続けてまいりたいと、このように思っております。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） よろしくお願ひしたいというふうに思います。

次の市内の祭りを一つにということでございますけれども、今も現在、バスの料金一日500円券で巡回できるようなことを考えていただいておりますので、今年その500円券がどのような形で何枚ほど売れたかというようなことはわかるでしょうか。

議長（秋田裕三君） 坂根まちづくり推進部長。

まちづくり推進部長（坂根雅彦君） 新たな取り組みとして一日に何度でも乗降していただけるという意味合いを込めて500円券を、あるいは子どもについてはその半額というところで売り出しをしております。

今、手元にその状況を持っておりませんので、また後ほど資料としてお渡ししたいと思います。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） よろしくお願ひしたいというふうに思います。

次に、音水湖の関係に入りたいというふうに思うんですが、関西ワールドマスタースターズゲームズのカヌー競技については、奈良県のほうに行ったというふうに聞かせていただいております。今、市長のほうからもそういった答弁がございました。それで、音水湖では、開催できなかったという理由、そういったことはあるんでしょ

うか。例えば観覧席の増加とか、それから駐車場の整備とか、そういったことが支障になったのではないかなというふうに、私は思うわけでございますけども、音水湖で現在の状況でできますカヌー競技、そういったものはどの程度なら競技ができるのか、今の観覧席で。そして、駐車場でというようなことはわかるでしょうか、お伺いしたいというふうに思います。

議長（秋田裕三君） 松木波賀市民局長。

波賀市民局長（松木慎二君） 失礼します。実友議員の御質問にお答えします。

現在、音水湖カヌー競技場におきましては、恒例となりました大会としては、兵庫県内の高校生の大会がございます。大体、70、80人ぐらいの選手が参加しております。そういう規模のものは全く安定して開催できております。

ただ、昨年には、急遽天候のかげんで引原ダムで開催したいということで、近畿の高校のインターハイが和歌山のほうからこちらに振られてきました。何とか協力したいということで、選手も140名ぐらいおりましたけども、高校生の場合は、自艇参加といいますか、まあ言えばクラブで持っている艇を持って来まして、入れ替わりで乗りますので、艇の数があまり多くないということで、受け入れができました。

今、目指しております関西学生選手権、これにつきましては選手が大体300名ほど、西日本の大学から11、12校参加なんですけども、それになりますと、大学の選手は一人1艇持っておりますので、そういう関係で艇の置き場がないと。ワールドマスターズゲームズにおきましても同じ状態でございますので、現状の競技場のスペースでは、艇置き場がないというのが最大のネックでございます。

それと、当然、駐車場もないということで、現段階の会場の様子を見ていただく中では、ちょっとできそうにないなという判断をされたと思っております。今後、今現在、龍野土木事務所のほうで、湖面内に艇置き場と駐車場を兼ねる第2会場というのを今の会場から北へ約400メートルぐらいのところに設置をしようということで、今年の11月から既に工事が始まっております。ただ、予算の都合もありまして、3カ年計画ですので、平成30年度末の完成をめどにしております。

したがって、それ以降はそういう大学の大会でありますとか、関西カヌースプリント選手権というような大会を大手を振って誘致できると考えておりますので、今現在、水面下でそういう完成のめどをお話ししながら、何とか音水湖のほうで常時開催という格好でこぎつけられないかということで、動いております。

それと、大きな大会もそうなんですけど、日常の利用といいますか、そういう関係

も進めていく必要がありまして、これはレンタルカヌーということで、指定管理者のほうで頑張ってくださいしております。これにつきましては、平成21年から平成27年の間ですけども、比べますとおよそ6倍の利用者数が増加しております。これもカヌーまつりとかを開催して、音水湖でカヌーができるということを周知したことが効果を発揮しているのかなと思っておりますけども、そういうふだんの利用というのも大いに進めていく課題であると思っております。

それ以外にも、指定管理者のほうで、今年初めてサップといいまして、スタンドアップパドルサーフィン、サーフボードの上に立って漕ぐ、そういう競技も始まりまして、また別のジャンルから音水湖の利活用ということも取り組んでおりますので、いろんな可能性を秘めているエリアだと思っております。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） 夢のある回答をいただきまして、本当にありがとうございます。

この音水湖のカヌーをメッカにしていきたいと、これは市長、当初から言っておられるところでございます。今、関西学生選手権の大会も誘致ができるというような話を伺いまして、それになれば駐車場といいますのは、今現在もつくっていただいているようでございますが、何台ぐらいはとめられる駐車場になるのか。そして、また観客席なんですけど、それは何人程度収容できる観客席になるんでしょうか。お伺いしたいというふうに思います。

議長（秋田裕三君） 松木波賀市民局長。

波賀市民局長（松木慎二君） 車の駐車場のスペースとしましては、今造成していただいているところで、車自体であれば100台駐車可能になります。ただ、学生の場合は全ての方が車で来られませんで、バスで来られたりとかということになりますので、ほとんどは艇置き場で使用するような格好になりまして、駐車場としましては、大体40台から50台ぐらいの利用になるかと思っております。

観覧席につきましては、現在の会場になっております部分で、座れば2,000人ぐらいは収容できますので、それについては全く問題ないと考えております。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） 今、100台ほどの駐車場ができておるようでございますが、これは観客の方も合わせての100台ということでもいいでしょうか。それでも収容は十分。例えば、今言われます2,000人の方が来られたときに、とめられる駐車場はあるんでしょうか。

議長（秋田裕三君） 松木波賀市民局長。

波賀市民局長（松木慎二君） 実際、ぶっちゃけたことを言いますけども、カヌー競技で2,000人も観覧者は来ないんです。せいぜい来られて100名か200名ぐらいになります。大体、近親者の方の応援というような格好になります。そういう関係で、乗り合わせで大体遠方から来られますので、40台とそれからあとは閉鎖しましたが、姫路市さんの野外活動センターの前の国道跡、そういう道路敷ですね、そういったところを臨時駐車場とか、そういう活用もしておりますので、そういう大きな大会が誘致できたときには、そういう臨時的な対応で賄えると考えております。

議長（秋田裕三君） 11番、実友 勉議員。

11番（実友 勉君） ありがとうございます。そういったできるだけ大きな大会を呼んでいただいて、それこそカヌーのメッカにさせていただきたいなというふうに思います。

それと、ちょうどオリンピックのときの聖火の関係なんですけども、姫路市と一緒に頑張って要望していきたいという話を伺いました。何とかこのことも実現できるように一つよろしくお願いをいたしまして、私の質問を終わりたいというふうに思います。

議長（秋田裕三君） 答弁はよろしいか。

これで、11番、実友 勉議員の一般質問を終わります。

続いて、榎橋美恵子議員の一般質問を行います。

9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） 9番、榎橋でございます。議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

初めに、ひとり親家庭などを守る対策を。

全国で今、ひとり親家庭の子どもたちを支援する動きが広がりを見せています。仕事などにより保護者が不在となる時間帯の子どもの居場所づくりの子ども食堂、食事が終わったら学習支援にも手を差し伸べています。子ども食堂には、地域の元気なお年寄りの方にも御協力をいただき、学習支援には、教諭OBの方に力を借りて取り組まれています。また、ひとり暮らしの高齢者の方も子ども食堂へ足を運ばれています。

子どもたちに私たちも応援しているよという、そういう温かい心を届けていきたいと思います。宍粟市においても、このような居場所づくりを御検討いただきたい。

続きまして、婚活イベントの取り組みについてでございます。

婚活イベントにいろいろと工夫をし、取り組んでいただいておりますが、体験型を取り入れてはいかがでしょうか。例えば写真を撮るのが好きな方には、カメラを手にまち歩きをして、スポットを撮っていく中で、話をする機会も増え、気心を知るチャンスも生まれてまいります。また、スポーツと一緒に楽しむ、料理、ケーキづくりをするとか、そんな取り組みを提案したいと思っています。

続きましては、地方創生について市長に伺います。

人と生きる地方創生、今、みんなが元気に生き生きと頑張っていらっしゃいますか。市の中心部はいいよな、過疎の人は日々の生活が大変になった、何か取り残されたようだとの声をよく聞きます。また、子どもたちに希望が持てるまちでしょうか。みんなをどう元気にされていくのかを伺いたいです。

これで最初の質問を終わります。

議長（秋田裕三君） 榎橋美恵子議員の一般質問に対し、順次答弁を求めます。

福元市長。

市長（福元晶三君） 榎橋議員の御質問、大きく3点ありますので、私のほうから御答弁を申し上げたいと、このように思います。

最初に、ひとり親家庭等を守る対策をと、こういう御質問であります。ひとり親家庭に対する支援につきましては、国が示す子どもの貧困対策に関する大綱におきましても、重要施策として位置づけられておりまして、その推進が現在図られているところであります。

宍粟市におきましても、母子父子自立相談支援事業を中心に、庁内各部署及び関係機関が連携して、さまざまな課題を抱えて困窮されているひとり親家庭への包括的な支援に取り組んでおるところであります。

議員御案内の子どもの居場所づくりということにつきましては、学校や福祉、地域やボランティアなどが一体となった子育て支援のモデルとして注目されているものでありまして、子どもたちが地域のさまざまな人たちとかかわる中で、豊かな人間性や社会性を身につけていく、さらには、子どもたちと支援者、また支援者同士の世代を超えた交流が温かい地域の輪となって広がっていく、このように考えてみますと、子どもの居場所づくりは広く地域づくり、まちづくりに繋がるものであるといえます。

このような取り組みにつきましては、NPO団体などにより、既に都市部自治体においても広がりを見せておるところは承知しております。

我が宍粟市におきましても、これら先進地の取り組み状況などを参考にしながら、



宍粟市の実情に合った取り組みについて、今後研究をしてまいりたいと、このように考えております。

2点目の婚活イベントの取り組みであります。現在、宍粟市においては、社会福祉協議会に委託をしております出会いサポート事業、また、市が直接しております消防団員を対象とした婚活イベント事業、さらに、出会い応縁事業など、年数回の婚活イベントを現在それぞれの立場で開催をする中で、独身男女に出会いの場を提供しているところであります。

その内容としましては、例えば屋外でのクッキングであったり、木工クラフトづくり、あるいはクリスマスケーキをつくる、さらにまた、それと買い物ツアーなどを組み合わせたりと、種々やっておりますが、徐々に体験型のものも多くなっており、状況であります。

イベントの企画に際しましては、宍粟市の魅力の発信、こういったものを念頭に置きながら取り組んでおるところであります。ただいま議員の御提案のありましたことについては、十分参考にしながらプログラムの展開を図っていく必要があるだろうと、このように考えております。

引き続き参加していただく皆さんが、宍粟市のよさを体験していただきながら、少しでも多くの方に魅力を発揮していただけるような、また、自分自身を十分発揮できるような場の提供といえますか、そんなイベントづくりを目指して、さらに取り組んでいく必要があるだろうと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

3点目に地域創生のことでありますが、御指摘があったとおり、過疎化により地域の生活機能、あるいは賑わいが失われつつあります。いわゆる日常生活が不便になっていくということが、地域の活力の低下に繋がってくるだろうと、非常にそういうところを危惧するところであります。

そういう中で、これまでもお話し申し上げたとおり、地域創生総合戦略をつくり、その重点化をして何とか人口減対策、あるいはそれに基づいて地域の活力を求めていこうと、こういうところに踏み切ったところであります。

その中で、特に、市民局周辺を人口流出を防ぐ第一のダムとして位置づけて、市民局等の公共施設の更新とあわせて生活圏の拠点づくりに着手をすることとして、本年度より一宮市民局周辺における拠点づくりの協議を開始しておるところであります。

この生活圏の拠点整備につきましては、行政機能の整備だけではなく、世代間の

交流であったり、地域活動の拠点となるような機能も持たせることによって、地域のおけるまちづくり活動の拠点としたいと、このように考えております。

さらに、あわせもって生涯学習、あるいはその中の図書館の機能、あるいは今日的な課題である子育て、それに対する交流のスペース等々、そんなことを設けることによって、地域の賑わいの創出を目指してまいりたいと、このように考えておまして、現在、それぞれの立場から代表の皆さんにお集まりいただいて、いろいろ協議をさせていただいております。

昨日もあったとおり、そういった中に是非若者をということもありますので、そういったことも念頭にしながら、今後、若者世代、あるいは子育て世代、幅広い方々の御意見を伺いながら、将来に向けて希望が持てるまちづくりになるよう努めていきたいと、このように考えておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

以上であります。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） それでは、再質問させていただきます。

昨日も子どもの貧困に関しては、いろいろとお話が出ておりましたけれども、この子ども貧困が起こる背景には、シングルマザーなどひとり親家庭の経済的困窮が影響をしているとの指摘があります。こうした家庭では、進学の断念などで高度な教育が受けられない子どもが大人になって困窮する貧困の連鎖が懸念されていくわけです。生まれ育った環境で将来が左右されない社会を目指して、ひとり親家庭への支援を進めていかななくてはならないと思っております。

昨日もるるお話がございましたが、本当に一人一人の子どもさんが平等に大学にも進め、また、いろんなことができるそういう社会を築いていかななくてはなりません。

それで、子どもの食堂でありますけれども、今回議会におきましては、市民の皆様の意見をしっかりと聞きたいということで、ワークショップ形式をとらせていただいて、いろんなお話を聞くことができました。その中で、子ども食堂をつくったらどうかという意見もたくさん頂戴いたしました。元気な高齢者もたくさんいらっしゃるわけです。それで、その人たちが何か私たちも協力したいと、何とかこの子どもたちを本当に守っていきたいんだけど、市としての協力はないものかと、そういうふうなお話もございました。

部局に聞きますと、手を挙げてくれれば支援はするよとおっしゃっているんですが、なかなかそれを待っていると、いつになるかわかりませんので、行政が本当に

ここでしっかりと先頭を切ってやっていくという、そういう意思はございますか。  
議長（秋田裕三君） 大島健康福祉部長。

健康福祉部長（大島照雄君） ただいまの榎橋議員のほうから市民の皆様の声をもらっているということでありました。市の担当としましては、そういった方々が支援を起こしていただく活動、それに支援をしていくというスタンスで今考えております。

実際、都市部のほうで行われておりますのもNPO団体ですとか、ボランティア団体ですとかが中心になってやっておられる活動でございますので、そういった方々に対して市は支援をしていくというふうにしたいと考えております。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） それはそうなんですけれども、なかなか、じゃあ私がしますという人が出てこない場合、ずっと時間が延びていくわけですよ。ですから、北九州市の例を挙げますと、本当に市の職員がしっかりとそこに携わっていらっしゃるんですね。地域の人を巻き込んでこういうことをしましょうということで、そういう市民センターを利用したりしながら、そういうふうにも子どもたちの居場所づくりをしっかりとつくってくださっているところがございます。

ですから、本当に市民の皆様の声を待つのではなくて、本当に行政がどうか力をまずいただいて、その中でまた、じゃあ私たちがしますよという、また広がりが増えてくるんじゃないかと思えます。ですから、本当に子どもたちはやっぱり大変な子どもが今いらっしゃるわけですので、その人たちをしっかりと守っていくということをまずお考えになったらいかがでしょうか。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） 冒頭お話のあったとおり、経済的な困窮、あるいはそれが貧困の連鎖を生んでいくと、このことはもうそのとおりでありまして、特に、生まれ育った環境で将来を左右されない、そういった方については行政の支援もせないと、こういうのが基本的なスタンスであります。

今現在、それぞれの地域やあるいは小学校区でも、社会教育の分野も含めてであります。土曜ふれあい学級とか、地域でいろんな方々がボランティアで支えていただいております。

それは、広く子どもたち全員という対象でありまして、例えば、そういう貧困な家庭を対象とした、あるいはその子どもを対象としたというのは、なかなか現実的には非常にいろんな課題もありますので、そういった方々であったり、いろんなボ

ランティアの団体もたくさんいらっしゃいます。また、例えば、そんなことをやりたいと、どうなんだということも含めて、市のほうからそういったことどうでしょうということについては投げかける必要があるだろうと、このように考えておりました。市が直接やるという方法もあるんですが、私は地域の皆さんの支援をお借りしながら地域で支えていただくというのが望ましいのではないかなと思いますので、そういったことを含めて、市として皆さん方どうでしょうかと、そういったときに、こういう支援もありますよというスタンスで、今後進めることが大事かなと思っておりますので、基本的な考え方は同じだと思いますので、可能な限り各団体の皆さん等々にもお願いをしながら、地域にもお願いしながら、こういった連鎖が起きないような仕組みをつくっていく必要があると思っておりますので、そのように御理解いただいたらと、このように思います。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） では、しっかりと地域の皆様の声を聞いていただいて、市長はいろんなところに行って、皆様の声を聞いていらっしゃるようでございますので、本当に子どもたちが困らないように、本当にそういう子どもが増えていかないように、力を注いでいただきたいと思えます。

ある国の言葉に、子どもには愛情がとっても必要だと、両親は横で、おじいちゃん、おばあちゃんは縦、そして、近所の方は横斜めのやっぱりかかわりが必要だと。ある国の言葉に、立派な大人に成長させるためには、一つの村が必要だということわざがあるようでございます。ですから、本当に今、子どもたちも少なくなってきましたので、近所で本当に子どもの声も聞きません。ですから、本当にそういう子ども食堂に集って、やっぱりいろんな人のお話を聞きながら、家庭では本当にひとり親などでなかなかお話をすることもできないし、子どもさんも少ないので、そういうことがなかなかないんだけど、いろんな人の話を聞きながら、子どもというのは成長していくんだと思うんです。ですから、私たちもいるよという、そういう温かい心を子どもにどうか届けていただきたいと思えますので、その支援がしっかりとできていきますように、どうかよろしくお願いをしたいと思えます。

続きまして、婚活なんですけれども、昨日もお話が出ておりましたけども、結婚する人がやっぱり少ないですね。昔は結婚するのが当たり前っていうのはおかしいんですけども、誰かが紹介してくださって結婚するというのが普通でございました。でも、今、いろんな社会状況も変わってまいりまして、結婚をあまり重視しない人も増えてまいっております。でも、したい人が機会がないからできない、そういう

人も多いわけでありまして、この婚活イベントもたくさんいろいろしていただいております。

私が先ほど申した体験型なんですけれども、いろんなところで共有できる、そういう夫婦関係であって、まちにいろんな古民家があるわけで、それを利用して、ある地域におきましたら、ここに人に来てほしい、ここにケーキ屋さんが欲しい、ここに何屋さんが欲しい、ですから、その人を移住していただきたい、そういうふうなことで、移住がどんどん、そこに住む人が増えているという地域があるわけですよ。

ですから、誰でもいいということはないんですけども、そこにまた雇用も生まれるでしょうし、まちも賑やかになっていくでありましょうから、ですから、先ほど料理とかいろんなことで、もしここで住んでくださったら、これだけの支援をしますよと、そういうふうないろんなことを考えていただいて、とにかく結婚する人を増やして、子どもさんが増えていくと、そういうことを考えていかないと、本当にどうなってしまうのかというのが、全国どこでもそうなんですけども、これをしたい、これをするというそういう目標があつての婚活イベントでしょうか、それをお聞きしたいです。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） 先般、テレビやいろんなところで、こういった現代の若者の志向というところで討論もあつたり、あるいはそれを情報としても出ておりますが、それがいいのかわかりませんが、若い人たちにとって、異性への興味関心が非常に薄くなっているという状況が、ちょっと率は忘れましたが、かなり高率で出ておること、そういったことも今日の状況があるのかなという討論がなされておりましたが、これは日本全国のことではありますが、そういうようなこともあつて、だんだん若者の志向というか、いろんな意味が変わってきておる状況は、私たちがつぶさに捉えた中で、それを的確にどうやって、例えばそういうものを企画をしながら打っていくかということが、私は非常に今日大事なかと、ただ単に婚活して、どうぞ来てください、結婚しなさいよというスタンスが果たしていいのかということなんですけど、ただ、婚活というのはできるだけ出会いの場をつくって、その中でお互いの異性を尊重しながら、さらに結婚へと繋いでいけばいいなという、一つのきっかけのところにあります。そのきっかけのところに、例えばそういういろんなものを組み合わせていくということでもあります。

先ほどおっしゃったように、空き家をうまく活用したり、あるいは商店街の活性

化に結びつけたり、そういうことも狙いとして持ちながら、今後いろいろと趣向を凝らして、例えば婚活のイベントを組んでいくことが必要だろう、大変重要やとは思っているんですが、ただ、若い人たちの本当の狙いとか意向を十分捉えないと、大人のひとりよがりみたいなもので進めると、私はいけないのかなということとは私自身も反省しておりまして、今後、またいろんな方々の御意見をいただきながら、特に、今その場にいる若い人たちの声も聞きながら、そういう仕掛けをしていくことが大事だと思っておりますので、今提言をいただいたところも踏まえながら、また十分議論を深めていきたいと、このように考えております。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） 今、地域おこし協力隊の方にも協力いただきながら、地域を活性化していただいているわけですがけれども、島根県の邑南町には、地域協力隊の方はシェフの方を育成しようということで、3年間勉強してください、そしたらまたお店を持てるじゃないですかということで、お店も提供して、本当にたくさんの方がイタリア料理だとか、そういう料理を目指して観光客がすごく増えたと、ちっちゃなまちなんですけれども、本当にすごい予約がいっぱいだというふうなところもあります。

ですから、そういうこともまた心に入れていただきながら、いろんなことでまちを活性化して、人口も増えていかなきゃいけませんし、そういうイベントもいろんなことを考えて、また、イベントだけに頼るんじゃなくて、私は思いますのに、一人一人が近所にいらっしゃる方に本当に目をかけていただいて、どうかなどうかなというんなことで、やっぱり昔はお説教おばさんっていたんですけども、そういう姿勢がやっぱりここあまりないように思うので、一人一人が気をつけながら、やっぱりそういう人口の増加、また、一人一人幸せを目指して、頑張っていきたいなと思いますけども、この地域協力隊の料理関係のことはどう思っていますか、市長。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） 今、地域おこし協力隊も市内でああいう形で頑張っていて、地域の皆さんといろいろ努力して、今ちょうど1年ちょっと経過したんですけども、いろんな形で頑張っています。直接そういった形で、例えばシェフを育成するための地域おこし協力隊を募集していくということが、いいのかなともちょっとわかりませんが、一度検討する必要があると思うんですが。ただ、地域おこし協力隊は、地域に根づいていただいて、一定の年限、例えば3年後には自ら起業し

て、そこで経済的な活動をしたり、自立をしていこうという動きでありますので、当然、今おっしゃったことも非常に重要な部分であります。一度そういったことができるのかどうかは、検討していきたいと思います。

ただ、一つの例でありますけれども、イベントはただ単なるイベントで終わったら、私はだめだと思っております。それをどうこれからの日常に繋いでいったり、継続をさせていくことによって、その地域の活力を生んでいく、言葉は妥当かどうかわかりませんが、一つの手段としてうまくとらえていければ、そこに集う人たちが次にどうするかということなんですが。

この山崎のもみじ祭りの中で、はいから通りとかいろんな通りで、この前もお話ししたとおりであります。その一つに今年、空き家を活用して若い人たち、御夫婦が帰って来られて、あるいはよそから来られた方もいるんですが、シフォンケーキとか、いろんなことでやられておりました。私もそのときお邪魔したんですが、非常に若い人たちがたくさんそこにお茶を飲みに来たり、あるいはケーキを食べながらということの風景を見て、その青年ともお話をしたんですが、そういう一つの積み重ねが私はこれからのまちの活力や、あるいは若者にとっての夢や希望が持てるように繋がると、こう思います。それだけではなしに、そういう一つの一つの積み重ねをやるのが大事だと。それを凝縮して一つのイベントとしてやることによって、また次に繋いでいくと、こういうことがとても重要ではないかなと思っておりますので、そのための地域おこし協力隊が役割を担えらしたら、今後検討を加えていきたいと、このように思います。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） 先ほどのシェフのお話なんですけども、そこは3年たってお店が持てて、自分でそこに定住をしているというケースでございましたので、それも御参考いただきたいと思います。

最後になりますが、地方創生のことでございます。

一人一人が輝くことがこの地方創生、一億総活躍社会と言われております。一人一人が元気になって、一人一人が幸せになっていく、そういうものを目指しながら、今、政府がいろんなところに呼びかけて、何とかその地域、地域で元気になってほしいということを訴えていただいていると思います。

本当に市が一本になることはとても難しく、宍粟市がとっても広くて、小ぢんまりしたまちではありませんので、本当に奥の奥のほうでも、それぞれ住んでいらっしゃる、ちょっとここ大変だろうなあという箇所がいっぱいあります。本当に

今は車を運転できるんだけれども、これから先どうなるんだろうと不安を抱えていらっしゃる人がいっぱいいらっしゃいます。

昨日も公共交通のお話が出ましたけども、もう乗れない、乗っても次帰ってくるのをどうしようと、すぐ考えてしまうし、お店もない、これから先どうして生きていけるんだろうと、本当に心細くなるなという方もたくさんいらっしゃいますので、どうか末端までしっかりと皆さんが元気で過ごせるまちをどうか目指していただきたいと思っております。

公共交通では、自治会長さんに言って、いろんな問題点を言いなさいというふうになっているので、なかなか難しい。バスに意見箱を置いてほしいという意見もございました。ですから、本当にこの間の議会報告会でもそうなんですけれども、これ、議員さん、乗っちゃったんと言われて、私もまだ乗っておりませんでしたので、本当に申しわけないなと思ったんですが、あなたたちがちゃんとつくるって賛成したんじゃないかと、もっと利用してやっぱり数字も上げてほしいし、本当に皆さんを元気にしてほしいとおっしゃったんですね。なかなか乗る機会がなくて申しわけなくて、まだ乗っておりませんけれども、本当に数字を見たときに、これ大丈夫かっておっしゃる声がたくさんございました。ですから、1年がそろそろ来るわけですけれども、しっかりと検討をいただいて、まちの隅々までが本当にこのバスが通ってよかったなという、そういう喜びの声が聞けるように、どうかしていただきたいと改めて思っております。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） それぞれの地域がやっぱり特色があったり、歴史や文化が当然違いますし、地域によって人情も違います。それが平成17年にそれぞれのことをいろんなことを持ち寄って宍粟市をつくって、宍粟市の未来へみんな希望を抱いて、宍粟市ができたと思っております。

そういう意味では、私は幾らか年限がたってきたんですけれども、ようやく宍粟市が一つになって、宍粟市という枠組みの中でお互い生活やいろんなことを考えていきたいと思います、こういうことに私は現在なっていると、こう思っております。

そういう中で、やっぱりその場に住んでいるのは誰しも一番であります。そこに住み続けたいと、いかなるところであろうと。その願いに私たちはやっぱりそれぞれの立場で応えるように努力せないかと、こう思っておりますし、それが政治の役割だろうと、こう考えております。

そこで、私は常々あちこち行かせていただいて、昨年からはやっぱりバスの問題



もあちこちで言っております。やっぱりみんなで守ってもらわないと、どうしようもないこともありますよということがあります。ただ、今はバスが必要なくても、将来必ずとこういうこともありますので、なお一層市民の皆さんにそのことについても啓発、啓蒙を図っていきたいと、このように考えております。

あわせもって、一億総活躍ではないんですが、私は市民の皆さんが生涯現役で健康でと、こういうことが私は大いなる願いだと、このように思っております。例えばであります、百歳体操でありますとか、ラジオ体操でありますとか、そういったことも通じて、市民の皆さんがいつまでも健康で元気で、こういう生活が送れるように、さらに努めていかななくてはならないと、こう思っておりますので、そのことが私は宍粟市の宍粟創生に繋がってくると、このように考えておりますので、そのつもりで頑張らせていただきたいと、このように思います。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） 子どもたちに希望が持てるまちをつくっていただきたいと思っております。教育長にちょっとお伺いいたしますけれども、尼崎では、小学校の6年生に各種業界の労働者から直接話を聞く、そういうキャリア教育を実施されております。

宍粟市にもたくさん仕事があって、こんなすばらしいことがありますよと、本当にそういう魅力を小学校の時代からしっかりと植えつけていただきたいと思っております。それぞれの仕事がすごいということ子どもたちにしっかりと教えていただきたいと思っておりますが、こういうお考えはありますか。

議長（秋田裕三君） 西岡教育長。

教育長（西岡章寿君） キャリア教育という部分かなと思うんですけども、しそ生き生きプロジェクト事業に取り組みまして今年3年になるんですけども、その中でその学校の先輩であったりとか、それから、その地域で活躍されている人であるとか、そういう人を呼んでお話を聞く機会をつくるようにということも取り組んでおりますので、先輩と語る機会であるとか、そういうこともやっております。

例えば、市長の出身の中学校に市長に行っていたら、市長の子ども時代の話とか、市長になっての話とか、そういう話を聞く機会もほとんどの学校で設けていると思っておりますので、今言っていたことももう一度校長会で伝えて、さらにキャリア教育について学習するようには伝えていきたいと思っております。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） よそに行かなくても宍粟にこんなすばらしい仕事場がある

ということをしっかり子どもたちにも教えていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

尼崎では、最近行われたキャリア教育の中に、議員さんも招待されまして、議員とはどうあるものかということもお教えをし、また、政治的な勉強もして下さったようでございますので、そういうこともまた御検討いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そして、もう一つ、学校のいろんな講演会とかあるわけですが、やっぱり笑いというのがすごく人間は大事だと思います。笑いは免疫力を高めましますし、脳を活性化もいたします。血液や血糖値も改善されるわけです。驚くような健康効果があります。今、認知症もすごく問題になっておりますけれども、認知機能の低下も防ぐことができる。ですから、笑顔にやっぱりなっていくまちであってほしいと思っておりますので、どうかいろんな場でいろんな笑いが子どもたちに届けるような、そういう働きかけはされていますか。

議長（秋田裕三君） 西岡教育長。

教育長（西岡章寿君） 今、議員の皆さんも学校に行き話してやるというようなことも聞かせていただいたので、また、そのことについても伝えておきたいと思えます。

それから、笑いを学校でというのは、ちょっと思い浮かばないんですけども、特に笑いに特化した人を学校に呼んで講演会をするというのはないんです。ただ、講演をされる方が子どもにあわせて笑いを提供できるようなお話をしてくださる方は、たくさんいるんですけども、今後、その笑いにつましても笑顔あふれる学校というのは市内の学校でも一つの目標にしたりしておりますので、そういうことにつつましても取り組めたらいいなと思っております。

以上です。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） 笑顔になる活動、幸せだから笑顔になるのではなくて、笑うから幸せになるという言葉があるんですね。ですから、笑うことによって幸せを呼び込むということになりますので、先ほどの子ども食堂ではありませんけれども、そういうところに行って一人だとなかなか人間って笑いません。笑うこともできないと。テレビを見たら笑うでしょうけども。ですから、いろんな人の交わりの中にやっぱり人間というのは形成されていくものだと思います。

ですから、そういう子ども食堂が必要ということは、そこの中に行きまた笑い

を感じとっていただける子どもを増やしていく、そういう本当に温かい子どもが育っていく、そういうまちであってほしいなと思いますので、本当に笑いというのは人間にとってとっても大事なことだと思います。ですから、がんになっていらっしゃる方に最後の治療は何かといたら、笑いだとお医者さんがおっしゃったと聞きました。ですから、本当に笑うということはすごい人間にとって健康でもあるし、とても効果的なものなんだなと思っておりますので、どうか笑うことがたくさんできる、そんなまちを私は目指したい、それが私たち一人一人の活力にもなっていくでしょうし、幸せにも繋がっていくのでありましょうから、そういうことに関しては何か市長、何か考えはございますか。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） いろんなことをいろんな施策も打ちながらであります、ときには厳しい御意見やなかなか市民の皆さんにも御負担をかけることが多いんですが、基本的にはおっしゃったとおり、笑顔があふれるまちをつくっていくことが大事だと、こう思っておりますので、可能な限りその方向でまちが活力によって元気で明るく、いつでも笑い声が聞こえるような、そんなまちをつくっていきたいなとそういう夢を持って進めていきたいと、このように思っています。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） どうか市長にお願いいたします。来期も挑戦されるとお聞きをしております。どうか皆さんが元気で本当にここにいてよかったなと、市長がいつもおっしゃっています住み続けたいというまちづくりを本当にしっかりと取り組んでいただいて、本当に日本一のやっぱり宍粟だという、そういうものがやっぱり欲しいなと思うんですね。

ですから、市役所のところに何々日本一を目指すという、そういう看板でも立てて、本当にこれを目指すんだという、そういうものがやっぱり市民にも反映して、ああこれが宍粟なんだと、これを目指しているんだと、日本一を目指しているんだという気持ちを一人一人の中に植えつけていただくと、また元気になっていくと思っておりますので、何かそういうお考えはありますか。

議長（秋田裕三君） 福元市長。

市長（福元晶三君） 今のところ、これによって日本一を目指すというところまでは至っていないんですけども、先ほどおっしゃったように、市民の皆さんが元気で将来の夢や希望を持てるということについては、まずもって私自身が元気で夢を持って進めなくてはならないと、こう思っておりますので、今後、私自身の政策を打

ち出す中で、そういったことも含めて検討していきたいと思います。

議長（秋田裕三君） 9番、榎橋美恵子議員。

9番（榎橋美恵子君） じゃあ、最後にいたしますが、先ほど紹介いたしました島根県の邑南町では、本当に小っちゃな1万ちょっとのまちではありますが、日本一の子育て村を目指しているという看板を町役場に立てました。それによって本当に皆様が元気になっていったというお話も聞きましたので、どうかそういうことも御検討いただきたいと思います。

これで終わります。

議長（秋田裕三君） これで、9番、榎橋美恵子議員の一般質問を終わります。

#### 日程第2 第125号議案

議長（秋田裕三君） 日程第2、第125号議案、伊水小学校屋内運動場改築工事請負契約の締結についてを議題といたします。

上程議案に対する提案理由の説明を求めます。

福元市長。

市長（福元晶三君） 第125号議案、伊水小学校屋内運動場改築工事請負契約の締結につきまして提案理由の御説明を申し上げます。

伊水小学校の屋内運動場は、昭和46年に建設後、45年が経過し老朽化が進んでいるほか、施設が狭小であることから、学校の授業や行事、地域における利用等に支障を来しており、また、耐震診断を実施したところ、現行の建築基準法に適合していない箇所も判明しております。

このような状況から、生徒の安全確保と教育環境を改善するとともに、地域の防災拠点としても有効活用するため、当該施設の改築工事を行おうとするものであります。

この工事の実施にあたり、去る平成28年12月8日に入札を執行した結果、宍粟市山崎町宇原345番地、上林建設株式会社代表取締役、上林博幸と、契約金額2億8,944万円で工事請負契約の締結をしようとするものであります。

諸事情御賢察の上、原案に御賛同賜りますようよろしくお願い申し上げます。

議長（秋田裕三君） 説明は終わりました。

続いて質疑であります。通告がありませんので、質疑を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（秋田裕三君） 御異議なしと認めます。

これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております第125号議案は、総務文教常任委員会に付託いたします。

以上で、本日の日程は終了しました。

次の本会議は、12月20日午前9時30分から開会いたします。

本日は、これで散会いたします。

御苦労さまでした。

(午前10時48分 散会)